

うらしまたろう

3

たろう

太郎は、かめのせなかにつて、村に帰ります。

むら かね

たろう

むら

かね

村に帰った太郎は、村のようすが変わってしまったているこ

① いえ

とに、気がつきす。知っている人はだれもないし、家が

なに

くさ

あつたはずのところは、何もな、ただの草むらになつてい

かあ

ます。お母さんのすがたも、どこにもありません。

たろう

むらびと

こえ

たまらず、太郎は、とおりがかりの村人に声をかけます。

かあ

「わたしのお母さんを知りませんか。」

むらびと

くび

村人は、首をかしげて、

問ー——①は、どういふことす

か。

いえ

ア 家がなくなつて、マンションがた

つていた。

いえ はい

イ 家に入ろうとしたが、かぎをもつ

ていなかつた。

いえ

ウ 家がなくなつて、草むらになつて

いた。

いえ

エ 家にはいつたら、知らない人がそ

ばをすすつていた。

「」

「あんた、どこの村むらのものだ。」

と聞ききかえます。

「いやいや。わたしは浦島太郎うらしまたろうです。この村むらの漁師りょうしです。」

「浦島太郎うらしまたろうなあ……そんな人ひと、おったかなあ。すまんが、あ

んたのお母さんかあのことは、わからんよ。」

と言いって、村人むらびとはさっさと歩あるいて行いってしまいました。

浜辺はまべに一人ひとりぼっちになった太郎たろうは、夕日ゆうひをながめながら。

つぶやきます。

「ああ、なんで、こんなことになってしまったかなあ。」

家いえもない。お母さんかあも見みつからない。もう、太郎たろうは、何なにを

どうしていいか、わかりません。

「あ、そうだ。玉手箱だ。」

太郎は、乙姫さまに「けっして、あけてはいけません」と

言われたことは、すっかりわすれていました。

太郎が、玉手箱をあけると、中から白いけむりがもくもく

と出てきて、太郎の顔をおおいます。

やがて、白いけむりがきえ、太郎は玉手箱の中をのぞきこ

みましたが、中は空っぽでした。

そして、太郎は、白いひげのおじいさんになってしまいま
した。

問2 つぎのア、オをよんで、お話

にあうものには「○」を、あわない も

のには「×」をかきましよう。

ア 浦島太郎のお母さんは、見つから

ない。 「 」

イ 浦島太郎は、おばあさんになっ

た。 「 」

ウ 玉手箱には、お金がいっぱい入っ

ていた。 「 」

エ 村に帰で きたが、知でいる

人がだれもない。 「 」

太郎が、竜宮城で楽しい日々をすごしていた間、地上

では百年以上も、たっていたのです。太郎は、砂浜にへな

へたとへたりこみ、ただただ、とほうにくれるだけでした。

(おしまい)

問3 浦島太郎が、「白いひげのおじ

いさん」になってしまったのはなぜで

すか。

ア サンタクロースだから。

イ 鬼をやっつけたから。

ウ 玉手箱をあけたから。

エ かめをいじめたから。

「」